

令和3年7月1日  
株式会社 宮崎放送

各 位

## MRT宮崎放送「SDGs宣言」

MRT宮崎放送（宮崎市橘通西4丁目6番7号 代表取締役社長：牧 巖）は、国連が社会的課題や環境問題の課題解決を目指して採択したSDGs（持続可能な開発目標）の趣旨に賛同し、2021年7月1日、SDGs宣言を行いました。MRTグループ一同、SDGs達成のため県民、地域とともに行動してまいります。



MRTは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



## 主な取り組み

国連の「SDGメディア・コンパクト」加盟放送局としてSDGsの情報発信に務めるとともに、SDGsの17目標のうち、特に3項目を重点目標として取り組んでまいります。



- 環境保全を推進する「キープみやざきビューティフルキャンペーン」や26市町村と連携した「ココから照ラス！プロジェクト」等を積極的に推進し、地域課題解決に努力
- 作家・倉本聰氏による「五感」で学ぶ体験型手法をもとに出前授業など環境教育を推進
- 「まつり宮崎」等の事業や社会貢献活動を通して地域社会の持続的発展に寄与
- アナウンサーによる読み聞かせやメディアリテラシー推進により子どもたちへの教育に寄与
- ラジオ送信所（宮崎市）でグリーン電力（再生可能エネルギー）を活用
- 従業員一人一人が職場や家庭で省エネほか実践

## 環境教育の推進について

MRTキープみやぎきビューティフルキャンペーンは郷土宮崎の環境保全の推進を目的に1991年にスタートし、「MRT環境賞」による顕彰などに取り組んできました。キャンペーンは2021年7月1日に活動30年の節目を迎え、MRTはSDGs宣言をして新たな一歩を踏み出しました。

作家・倉本聰氏が北の国（北海道富良野）で実践する環境教育の手法も活かして、南の国（宮崎）で新たな体験型環境学習の道を拓くことにより、持続可能な地球の未来につなげてまいります。

### 「北の国から 南の国から」

17のゴール、169のターゲットで構成されるSDGs。

宮崎県の放送局として MRTは何をしていくべきか？ 難しい壁にぶつかりました。

MRTは1954年の開局以来、「平和で豊かな地域社会の実現に寄与すること」をモットーに番組を作り、報道し、多くのキャンペーンなどに取り組んできました。

この延長線上でやっていけばいいのか、それとも別の角度からアプローチするのか。

悩んでいるとき、作家・倉本聰さんが富良野自然塾で実践されている「五感を使った環境教育」を思い出しました。早速、北海道富良野へ赴き倉本聰さんご本人を訪ね、その教育の体験を通じて多くの事を教えていただきました。そして、気づかせていただきました。

倉本さんが執筆されたドラマ「北の国から」の中には、MRTがやるべきSDGsのヒントがたくさんあったのです。

たとえば、第一話の純と五郎の有名な会話。

「電気がない？ 電気がないと暮らせませんよ！」「そんなことはないですよ」

「夜になったらどうするの？」「夜になったら寝るんです」

富良野自然塾には多くの石碑があり、そこにも倉本さんのメッセージが刻まれています。

「あなたは文明に 麻痺していませんか。

石油と水は どっちが大事ですか

車と足は どっちが大事ですか

知識と智慧は どっちが大事ですか

批評と創造は どっちが大事ですか

理屈と行動は どっちが大事ですか

あなたは感動を忘れていませんか

あなたは結局何のかのと云いながら

わが世の春を謳歌していませんか」

もうひとつ、印象的な一文がありました。

「地球は子孫から借りているもの」

SDGsの本質はここにあるのではないかとMRTは考えます。シンプルで深いこの言葉を心に刻み、

MRTは、宮崎県の放送局として、新しいSDGsプログラムを創造し、番組、キャンペーンや出前授業などで、県民の皆様と一緒に「南の国から」SDGs活動を行っていこうと思います。

2021年7月1日

代表取締役社長 牧 巖